

平成19年度NPO法人近畿アグリハイテク 事業報告書

近畿地域における農林水産・食品バイオテクノロジー等先端技術(以下「アグリハイテク」という)の研究及び技術開発の推進、並びにこれによる農林水産・食品産業の発展に寄与するため、下記の事業を実施した。

1. アグリハイテクに関する研究及び知的財産情報等の収集及び提供

(1) 情報の収集

- 1) 大学及び試験研究機関等の研究報告書、定期刊行物等の資料収集を行った。
- 2) アグリハイテクに関する行政制度、行政施策、とりわけ提案公募型研究開発事業についての情報、会員が所有する最新の技術情報、知的財産に関する情報、アグリハイテクに関する先端・先進技術及び経営・マーケティング等に関する人材等の情報の収集を行った。

(2) 情報の提供

- 1) シンポジウム・講演会等の講演要旨刊行物については、会員並びに関係支援機関、刊行物の提供を受けている大学、試験研究機関等に送付した。
- 2) 入手したアグリハイテクに関する行政制度、行政施策、とりわけ提案公募型研究開発事業についての情報、産学官連携共同研究推進に関する情報、会員が所有する最新の技術情報、知的財産に関する情報等についてはメール等により周知の迅速化を図った。
- 3) 「ホームページ」の活用
これまでの情報誌に代わり、NPO法人発足を機に平成18年度に開設した近畿アグリハイテク「ホームページ」(<http://www15.ocn.ne.jp/~kinkiagr/>)によって、会員、並びに関係機関から提供の情報、資料等についても情報の提供を行った。
- 4) 「メールマガジン」の発行
会員への情報提供の一方法として、昨年度に引き続き、「メールマガジン」を発行した(第2号、2007年8月22日、第3号、2008年4月9日)。

2. 近畿地域アグリビジネス創出フェアの開催

開催日:平成19年12月12日

開催場所:大阪市 OMM(マーチャンダイズ・マート)

参加者数:408名

主催:NPO法人近畿アグリハイテク/近畿農政局/(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター・近畿中国四国農業研究センター/(社)農林水産先端技術産業振興センター/(社)農林水産技術情報協会
共催:農林水産省農林水産技術会議事務局
後援:近畿ブロック地域科学技術振興協議会/近畿地域食料産業クラスター協議会連絡会議/農林漁業金融公庫近畿支店/農林漁業金融公庫大阪支店

内 容:開会に当たりNPO法人近畿アグリハイテク理事長 佐々木 義之 氏、農林水産省農林水産技術会議事務局先端産業技術研究課長 荒井 毅 氏の挨拶の後、次の各種の催しを行った。

①出展数:57機関のパネルなどによる展示・個別相談の開催

大学(10)、企業(20)、地方公共団体(6)、試験研究機関・支援機関(12)、その他(9)

②説明会・プレゼンテーション等の開催

・NPO法人近畿アグリハイテクの活動状況について

NPO法人近畿アグリハイテク 技術参与 米谷 俊 氏

・講演:コンソーシアム型研究体制における実用化研究を振り返って

京都大学大学院農学研究科 准教授 井上 善晴 氏

・展示機関によるステージプレゼンテーション:10機関

・競争的研究資金等の紹介:農林水産省・経済産業省の競争的研究資金の紹介及び食品産業クラスター形成についての紹介

・講演:発明等の知的財産化による利活用について～共同成果を活かす工夫
京都府知的所有権センター 特許流通アドバイザー 田所 義雄 氏

・産学官連携推進と知的財産の利活用パネルディスカッション

農林水産省近畿農政局生産流経営流通部農産課長 山本 真也 氏をコーディネーターに、京都府知的所有権センター特許流通アドバイザー田所義雄、江崎グリコ(株)健康科学研究所長 米谷 俊、(株)バイオマーカーサイエンス代表取締役社長 内田 景博、NPO法人近畿アグリハイテク技術参与 加藤 宏郎、大阪工業大学大学院知的財産研究科准教授 山名美加の5氏をパネラーに迎え、産学官連携と知財の利活用等についてのパネルディスカッションを行った。

3. 近畿アグリハイテク・シンポジウムの開催

(1)第42回近畿アグリハイテク・シンポジウム

開催日:平成19年10月19日

開催場所:京都市 ホテル ルビノ京都堀川

参加者数:78名

主 催:NPO法人近畿アグリハイテク/農林水産省近畿農政局/(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター・近畿中国四国農業研究センター/(社)農林水産先端技術産業振興センター

テーマ:「日本の食料・食品生産の現状と課題 ～社会・経済・環境変化への対応と将来像を語る～」

講 演:

1)激動する農政と今後の課題

(株)日本農業新聞

論説委員 須田 勇治 氏

2)食品加工技術のベクトル

- 京都大学大学院農学研究科 教授 安達 修二 氏
- 3) 食料自給率の向上は品種改良の成果にかかっている
京都大学大学院農学研究科 教授 谷坂 隆俊 氏
- 4) 高まる食品リスクとわが国の食料安全保障
アマタ(株)持続可能経済研究所 顧問 嘉田 良平 氏
- 総合討論:不二製油(株)フードサイエンス研究所副所長 高松 清治 氏の司会で、4名の講演者を交えた総合討論を行った。

(2) 第43回近畿アグリハイテク・シンポジウム

開催日:平成20年2月25日

開催場所:京都市 ホテル ルビノ京都堀川

参加者数:103名

主催:NPO法人近畿アグリハイテク/農林水産省近畿農政局/(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター・近畿中国四国農業研究センター/(独)森林総合研究所関西支所/(社)農林水産先端技術産業振興センター

テーマ:「野生動物と人のかかわり方を考える～動物管理と被害対策の課題～」

情勢報告:鳥獣害対策を巡る情勢

農林水産省近畿農政局生産経営流通部 農産課長 山本 真也 氏
講演:

1) 地域主体型野生動物管理研究:食肉利用、猟区経営、狩猟者育成、地域おこし
～北海道西興部村の事例～

酪農学園大学環境システム学部生命環境学科 助手 伊吾田 宏正 氏

2) 野生動物の消費的活用と感染症問題

岐阜大学応用生物科学部獣医学講座 教授 鈴木 正嗣 氏

3) 被害、個体群、生息地の3つの管理の適切な実施に向けて

兵庫県立大学 准教授・兵庫県森林動物研究センター

主任研究員 坂田 宏志 氏

総合討論:(独)森林総合研究所関西支所 研究調整監 山田 文雄 氏の司会で、講師3名に加え滋賀県農業技術振興センター 山中 成元 氏、大阪府環境農林水産総合研究所 川井 裕史 氏の2名がコメンテーターとして参加し、鳥獣害についての総合討論を行った。

(3) 近畿地域の伝統野菜に関するシンポジウム

開催日:平成20年3月13日

開催場所:大阪市 国民會館 武藤記念ホール

参加者数:181名

主催:NPO法人近畿アグリハイテク/農林水産省近畿農政局/(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター

テーマ:「近畿地域の伝統野菜に関するシンポジウム～伝統野菜の問題点を探る～」

演題:

1) TV 料理番組50年の材料表にみる人気野菜の推移

日本料理アカデミー 理事(武庫川女子大学 講師) 大森 いさみ 氏

2) 近畿の伝統野菜に関わる高度化事業成果の地域への波及効果

元大阪府立食とみどりの総合技術センター 森下 正博 氏

3) 伝統野菜の特性と食べ方を探る

学校法人辻料理学校大阪あべの辻調理師専門学校 清水 隆史 氏

総合討論: 伝統野菜の問題点を探る

コーディネーター 日本料理アカデミー 理事 大森 いさみ 氏

講師の他に東果大阪(株)、農林水産省知的財産戦略チームの2名がパネラーに加わり、伝統野菜の問題点を探る、と題して討論を実施した。

※このシンポジウムは、農林水産省が平成14年度に創設した提案公募型の事業である「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」に、平成16年度に採択された「近畿地域の伝統野菜の高品質安定生産技術と地産地消モデルの開発」(平成16～19年度)の研究成果報告会を兼ねている。近畿アグリハイテクの主要な活動の一つである、「産学官連携共同研究推進会議」においてコーディネートし、初めて採択された研究成果である。

4. 講演会の開催

開催日: 平成19年5月30日(総会時に開催)

開催場所: 京都市 ホテル ルビノ京都堀川

参加者数: 116名

主催: NPO法人近畿アグリハイテク／農林水産省近畿農政局／(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター・近畿中国四国農業研究センター／(社)農林水産先端技術産業振興センター

演題:

1) バイオエタノール生産技術開発研究の現状と今後の課題

京都学園大学バイオ環境学部 准教授 藤井 康代 氏

2) クローン牛生産技術開発の現状と今後の展開

京都大学大学院農学研究科 教授 今井 裕 氏

5. 農林水産分野に関する知的財産活用セミナーの開催

開催日: 平成19年11月16日

開催場所: KKR大阪

参加者: 39名(民間企業、国及び府県行政・研究・普及機関及び農業協同組合等)

主催: (社)農林水産先端技術産業振興センター

共催: NPO法人近畿アグリハイテク

趣旨・内容:

農林水産分野の知的財産に関する指導者として必要な専門的知識を付与す

るため、次の講演と活用事例の紹介があり、参加者との活発な質疑応答が行われた。

1) 知的財産戦略経営と研究開発のマネージメントのあり方

横浜国立大学教授 岡田依里 氏

2) 農林水産分野の知的財産と現場における活用について～農林水産省知的財産戦略と農業の現場における知的財産取扱指針～

農林水産省大臣官房企画評価課課長補佐 横田 美香 氏

3) 知的財産を経営に活用している事例

① 特許流通アドバイザーの役割と農林水産・食品分野の知的所有権の活用事例

京都府知的所有権センター特許流通アドバイザー 田所 義雄 氏

② 知的財産の資産化モデルによる分析・評価システムと農林水産分野における技術コンサルティングの実例

(株)IPB大学・公共法人部 部長 福田 茂則 氏

③ 企業の研究開発と産業財産権の利用

江崎グリコ(株)健康科学研究所 所長 米谷 俊 氏

6. 産学官連携共同研究推進会議の開催

提案公募型の各種競争的研究資金による研究開発事業を活用した産学官連携の共同研究に高い関心が寄せられていることから、これに対応した共同研究推進会議を2回開催し、支援を行った。

本年度も各専門分野における技術参与のコーディネート活動に依拠しつつ、20年度の競争的研究資金への応募予定課題の内容のブラッシュアップ活動を行った。

(1) 第1回産学官連携共同研究推進会議の開催

日 時:平成19年9月21日

場 所:ホテル ルビノ京都堀川

主 催:NPO法人近畿アグリハイテク／(独)農業・食品産業技術総合研究機構
近畿中国四国農業技術研究センター

出席者:57名(国・府県研究機関を中心に民間団体、大学、行政機関)

内 容:平成20年度の競争的研究資金制度の改正内容並びに研究成果の知財化と活用・保護についての説明の後、提案された15研究課題のプレゼンテーションとそれに対する指導助言及び研究グループごとの検討を行った。

(2) 第2回産学官連携共同研究推進会議

第1回の産学官連携共同研究推進会議の検討結果を踏まえて修正して提出された課題のブラッシュアップを図るために開催した。

日 時:平成19年11月13日

場 所:ホテル ルビノ京都堀川

主 催:NPO法人近畿アグリハイテク／(独)農業・食品産業技術総合研究機構

近畿中国四国農業技術研究センター

出席者:76名(国・府県研究機関を中心に民間団体、大学、行政機関)

内 容:第1回目に提案された課題を含め19課題についてのプレゼンテーションと指導助言、及び研究グループごとの検討が行われた。

提案課題数は、前年度より多い19課題が提案され、そのうち12課題が各省の提案公募型研究制度に応募された。

※平成19年度事業計画書の段階では業務方法書のとおり「研究開発推進部会」としていたものであるが、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センターの「研究支援事業(地域版)委託事業」に応募する中で「産学官連携共同研究推進会議」としたものである。

7. その他の研究支援活動

農林水産省総合食料局の公募型補助事業「食品産業技術海外展開実証事業」に、近畿アグリハイテク会員の2企業が応募することになり、近畿アグリハイテクが支援機関としてコーディネート活動を行った。

また、大阪府立大学産学官連携フェアへの協力の他、近畿農政局が主催した、遺伝子組換え農作物を考えるシンポジウム、生物多様性と野生動物被害対策を考えるシンポジウム、農林水産物・食品における地域ブランド展開に向けたセミナー～農林水産物・食品地域ブランド化支援事業等の支援策の説明を中心として～、ジビエによる地産地消と鳥獣害対策を考えるシンポジウム等の後援を行った。

8. 近畿地域研究・普及連絡会議への参加

「農業研究及びその成果の普及・実用化推進要綱について」(平成19年10月30日付け事務次官通知、19農会第850号)を受けた「近畿地域研究・普及連絡会議設置要領」(平成19年11月1日付け19近生第1170号(産)近畿農政局長)に基づいて開催された、近畿地域研究・普及連絡会議調整会議(平成19年11月15日)及び近畿地域研究・普及連絡会議(平成19年11月28日)に参加し、国の施策で対応すべき技術的課題について検討し、近畿農政局から農林水産本省に提出された。

9. 組織運営

(1)理事会の開催

平成19年度NPO法人近畿アグリハイテク理事会を下記のとおり開催した。

日時・場所:平成19年5月30日(水)・ホテル ルビノ京都堀川

出席者数:理事長他 20名(委任状を含む)

議事:総会に付議する事項(平成18年度事業報告及び収支決算報告、新規入会申込者の入会の承認、定款及び業務方法書の一部改正、技術参与会専門部会の新設、平成19年度事業計画案及び収支予算案、役員の選任、顧問及び技術参与の委嘱について承認された。

(2) 通常総会の開催

通常総会は、事前に開催された理事会を受けて次のとおり開催した。

日時・場所:平成19年5月30日(水)・ホテル ルビノ京都堀川

出席者数:63名(委任状含む)

議事:平成18年度事業報告及び収支決算報告、定款及び業務方法書の一部改正、技術参与会専門部会の新設、平成19年度事業計画案及び収支予算案、役員を選任、顧問及び技術参与の委嘱、について承認された。

※総会に先だって、近畿アグリハイテクの産学官連携推進に多大な功績のあった次の方々に近畿農政局長から感謝状が贈られた。

▽団体:江崎グリコ株式会社

▽個人:松野 隆一氏(前近畿アグリハイテク推進会議会長)

(3) 技術参与会の開催

日時・場所:平成19年7月13日・近畿農政局

出席者数:29名

議事:平成19年度総会で承認された、産学官連携推進支援事業、近畿アグリハイテク・シンポジウム・講演会の開催、情報の収集・提供等の年間事業の企画立案・運営等、の運営・推進方向についての具体的な検討を行った。特に、産学官連携による共同研究課題の策定、研究成果の実用化に向けての推進体制の構築等へのコーディネート活動の強化方策、共同研究推進会議開催計画等について重点的に協議した。

(4) 事務局運営会議の開催

事業活動を円滑に推進するため、運営体制・事業の内容についての基本的方向について検討するため以下のとおり2回開催した。

① 第1回事務局運営会議

日時・場所:平成19年9月14日・(財)生産開発科学研究所(事務局所在ビル)

出席者:理事長、副理事長、近畿農政局担当者、事務局員

内容:19年度の主要事業結果の報告、本年度の産学官連携共同研究推進会議の方針、NPO法人化後の体制及び活動方向、20周年記念事業、近畿地域アグリビジネス創出フェア開催計画等について検討した。

② 第2回事務局運営会議

日時・場所:平成20年2月21日・(財)生産開発科学研究所(事務局所在ビル)

出席者:理事長、副理事長、近畿農政局担当者、事務局員

内容:19年度の主要事業結果の報告と今後の事業計画、組織・運営体制、20周年記念事業計画、講演会開催計画等について検討した。